

2020年度第6回理事会報告

開催日時:2021年3月13日(土) 10:00 ~ 12:10

開催場所:一般社団法人日本社会福祉学会事務局 (Zoomによるオンライン開催)

I. 会長挨拶

定刻となり、木原活信会長より挨拶があった。

II. 理事会開会宣言(欠席理事の確認)

出席者全員がオンライン参加によるWEB会議の開催に際して、音声に問題なく、出席者が一堂に会するのと同等の意思表示が互いにできる状態にあり、議事進行に支障がないことを確認した。

定款第42条に基づいて木原会長が議長となり、出席理事および欠席理事を確認した。定款第43条に規定されている要件を充足したため、「2020年度第6回理事会」を開催するとの宣言があった。

なお、定款第47条に則り、議事録署名人として木原会長、秋元監事、和気副会長を選出した。

III. 審議事項

第1号議案 入会審査

総務担当木下理事より別冊資料に基づき説明があった。審議の結果、27名全員の入会が満場一致で承認された。

第2号議案 2021年度事業計画案および予算案について

総務担当木下理事より2021年度事業計画案について配付資料に基づき説明があり、各担当理事より2021年度からの新規事業等、共有すべき事項について補足説明があった。財務担当室田理事より2021年度事業計画案をもとに作成された2021年度予算案について、配付資料に基づき説明があった。審議の結果、2021年度事業計画案および予算案が満場一致で承認された。

第3号議案 学生の身分を有する会員のコロナ禍による年会費軽減措置の継続について

総務担当木下理事より配付資料に基づき説明があった。

今年度、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延したため、学生の身分を有する会員への年会費軽減措置を行った。引き続き2021年度も本措置を継続することについて運営委員会より提議があり、審議した結果、2021年度も学生会員への会費軽減措置を行うことが満場一致で承認された。

第4号議案 長期会員制度の設置および「(一社)諸会費規程」の改正について

総務担当木下理事より配付資料に基づき説明があった。

前回理事会で長期会員(シニア会員)の年会費減額制度の設置が承認されたことに伴い、次回の定時社員総会にて「一般社団法人日本社会福祉学会諸会費規程」の改正について承認を得るこ

とになった。運営委員会にて検討された改正案が提示され、審議した結果、満場一致で承認された。

第5号議案 2021年度定時社員総会での名誉会員の推挙について

総務担当木下理事より配付資料に基づいて、「一般社団法人日本社会福祉学会名誉会員規程」第2条第1項に該当する小林良二会員を名誉会員へ推挙する旨の提議があった。審議の結果、小林会員の功績を讃えて、名誉会員へ推挙することが満場一致で承認された。

第6号議案 2021年度定時社員総会の議題について

総務担当木下理事より、2021年度定時社員総会の議案書(案)および委任状(案)について配付資料に基づき説明があった。審議した結果、満場一致で承認された。

第7号議案 学会賞審査委員の追加委嘱について

木原会長より、前回理事会にて退任が承認された委員に代わり、黒木保博会員を学会賞審査委員へ委嘱する案が提示され、審議の結果、満場一致で承認された。

第8号議案 「(一社)学会賞審査委員会規程」および「(一社)研究倫理委員会規程」の改定について

総務担当木下理事より、学会賞審査委員会および研究倫理委員会において、その任期に上限が定められていることから、委員交代時の任期に関する項目を追加する案が提議された。審議の結果、満場一致で承認された。

第9号議案 「(一社)学会賞(学術賞・奨励賞)推薦書の受理に関する内規」の制定について

総務担当木下理事より、配付資料に基づき説明があった。なお、本議案は既に2021年2月22日に、電磁的に理事会承認がなされていることを確認した。学会賞審査委員会担当の岩井理事より補足説明があり、内容を確認のうえ、あらためて審議した結果、満場一致で承認された。

第10号議案 『社会福祉学』投稿要領ならびにフローチャートの一部改正について

機関誌編集担当柴田理事より、エディターズ・キック制度の導入を検討した経緯と、『社会福祉学』投稿要領ならびにフローチャートの一部改正について、配付資料に基づき説明があった。本学会では、当面は形式要件・記載事項の不備に対してのみの適用とすることを確認した。審議した結果、満場一致で承認された。

第11号議案 英文誌の投稿要領“Japanese Journal of Social Welfare: Instructions to Authors”の一部改正について

機関誌編集担当柴田理事より、学会誌『社会福祉学』の投稿要領は改正を重ねているが、英文誌“Japanese Journal of Social Welfare”の投稿要領にはそれらが反映されていないため、和文誌と同様の改正を行ってルールの一貫性を保ちたいとの説明があった。審議の結果、満場一致で承認された。

第12号議案 2022年度分以降の「学界回顧と展望」の「国際」部門のあり方について

機関誌編集担当柴田理事より、『社会福祉学』の3号に掲載される「学界回顧と展望」の「国際」部門に関して、現在はそのあり方を検討する期間として休載としているが、機関誌編集委員会にて協議し、2022年度以降は「国内で生じる国際的な福祉課題と動向」に焦点をあてることとし、より柔軟に国際的な動向に対応していくことにしたとの説明があり、満場一致で承認された。

第13号議案 学会に寄せられた情報への対応について

総務担当木下理事より、他団体からの情報提供や広報協力依頼への対応について提議があり、協議の結果、その方針を定めることとなった。

第14号議案 その他(オンライン入会フォームの導入、年会費コンビニ決済導入、他)

・入会申込書のオンライン化

現在、入会申込書の受付は郵送のみとしていることから、本学会に関心を持ち、入会を検討している方々にとって手続きが煩雑となっている。効率的に推薦人2名から承認を得られるようなシステムを用意することとし、オンライン入会フォームの導入を進めることにした。

・年会費のコンビニ払い対応について

現在、年会費の振込方法が郵便振替および銀行振込のみであることから、会員の利便性向上を目的として、コンビニ払いに対応する案を検討した。2022年度の年会費請求からコンビニ払いの導入に向けて準備を進めることになった。

IV. 報告事項

1. 2020年度会員動向

総務担当木下理事より、入会申込者数、現在の会員数、退会希望者数および2021年3月10日時点の2020年度退会者について報告があった。また、年会費の納入状況と納入率を確認した。

2. 2021年度事業計画案および予算案の提出について

総務担当木下理事より、各地域ブロックに対し2021年4月5日(月)までに2020年度決算書を、各委員会、各地域ブロックに対し2021年4月12日(月)までに2020年度事業報告書を提出するよう依頼があった。後日あらためて事務局よりフォーマットをメールで送付することを確認した。

3. 全国大会運営委員会からの報告

研究担当岩崎理事より、各行事の準備状況等について配付資料に基づき報告があり、その後、行事ごとにそれぞれの担当理事から詳細な説明があった。

4. 機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集担当柴田理事より、機関誌『社会福祉学』の論文投稿受付・審査および編集状況について、配付資料に基づき報告があった。

5. 国際学術交流促進委員会からの報告

国際学術交流促進委員会担当の和気副会長より、第69回秋季大会にて実施する留学生と国際比較研究のためのワークショップの詳細について、配付資料に基づき報告があった。

6. 学会賞審査委員会からの報告

学会賞審査委員会担当岩井理事より、一次審査の状況について配付資料に基づき報告があった。

7. 研究倫理委員会からの報告

研究倫理委員会担当倉田理事より、現在進行中の調査案件はないとの報告があった。

8. 広報委員会からの報告

広報委員会担当伊藤理事より、現在進行中の事業および2021年度の事業計画について配付資料に基づき報告があった。

9. アーカイブ化推進委員会からの報告

アーカイブ化推進委員会担当空閑理事より、現時点での報告事項は特にない旨の報告があった。

10. 研究支援委員会からの報告

研究支援委員会担当保正理事より、スタートアップ・シンポジウムの準備状況について配付資料に基づき説明があった。また、ニーズ調査のインタビューを実施しており、結果の分析や報告は後日行う予定との報告があった。

11. 地域ブロックからの報告

- ・北海道地域ブロック：12月13日にオンラインにてシンポジウムを開催した。『北海道社会福祉研究』第41号の発刊は2021年3月を予定している。
- ・東北地域ブロック：東北地域ブロック60周年記念事業として記念誌の発行し、投稿論文だけでなく、これまでの60年を振り返る企画や研究史、東北6県の福祉の歩み等を紹介する記事等を掲載予定である。ニューズレターを発行し、2020年度の総括や2021年度の予定等を案内する。2021年度の研究大会はコロナ禍により11月にオンライン開催することになった。
- ・関東地域ブロック：2021年3月6日に2020年度研究大会および総会をオンライン開催した。関東地域ブロックの機関誌『社会福祉学評論』に掲載された論文を審査対象とした奨励賞の第1回授賞者2名が決定し、総会にて授賞式を行った。編集規程の見直しを行い、査読のあり方について継続的に検討していく予定である。
- ・中部地域ブロック：1月に幹事会を開催し、2021年4月17日に開催予定の2021年度春の研究例

会およびシンポジウムの詳細を決定した。

- ・関西地域ブロック：2月に理事会を2回開催した。2月28日に年次大会および総会をオンライン開催し、午後に日本社会福祉学会第17回フォーラムをオンライン開催した。現在、機関誌『関西社会福祉研究』の発刊準備を進めている。
- ・中国四国地域ブロック：前回理事会以降の報告事項はとくになし。
- ・九州地域ブロック：1月に運営委員会を開催した。第62回研究大会は西南学院大学を中心として2021年6月5日にオンライン開催予定である。現在、機関誌『九州社会福祉学』第17号の発刊準備を進めている。

12. その他（後援依頼、関連団体からの報告、他）

- ・日本学術会議のあり方をめぐる議論の状況

和気副会長より、日本学術会議のあり方をめぐる議論の状況について、報告があった。

- ・後援（協賛）依頼について

総務担当木下理事より、前回理事会以降、後援依頼はなかったとの報告があった。

- ・関連団体からの報告

1) 日本社会福祉系学会連合

湯澤副会長より、2月1日に運営委員会を開催し、2021年度事業計画案や予算案について協議したとの報告があった。

2) ソーシャルケアサービス研究協議会

報告事項はとくになし。

3) 社会政策関連学会協議会

木下理事より、2月に貧困研究会の参加が承認されたとの報告があった。

4) 社会学系コンソーシアム

木下理事より、2021年1月23日午後にシンポジウムが開催されたとの報告があった。経済社会学会の参加が理事会で承認された。

5) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会：GEAHSS（ギース）

保正理事より、2021年3月28日午前に運営委員会が開催され、午後に公開シンポジウムが開催される予定との報告があった。

議長は、議事終了を告げ、12時10分に理事会を解散した。

以上